

秋田県北の発展と共にいのちとくらしを守る 地域が一体となった治水対策を推進



1. 概要

第3回米代川圏域流域治水協議会では、「米代川水系流域治水プロジェクト(案)」について説明を行い、**ご承認**いただきました。
また、プロジェクト策定がゴールではなく、今後、必要であれば見直しをしながら、**引き続き、関係機関が一体となってプロジェクトに取り組んでいく**ことを確認しました。

2. 実施状況

日 時：令和3年3月12日（金）10時～11時30分
 会 場：WEB会議（MicrosoftTeams）
 委 員：能代市長、北秋田市長、大館市長（建設部長）
 鹿角市長、小坂町長、藤里町長
 秋田県総務部危機管理監
 秋田県農林水産部長（農地整備課主幹（兼）班長）
 秋田県建設部長（河川砂防課長）
 （国研）森林研究・整備機構 森林整備センター
 東北北海道整備局長（秋田水源林整備事務所長）
 東北農政局 西奥羽土地改良調査管理事務所長
 東北森林管理局 米代東部森林管理署長
 気象庁 秋田地方气象台長（次長）
 能代河川国道事務所長

4. 主なご意見・コメント等

- ・ 国県のハード対策により治水効果は現れているが、我々自身もできることはしっかりとやっていく。現在、立地適正化計画を策定中であり、こういう計画をしっかりと準備することで水害リスクを少しでも減らすなどソフト対策を積極的に進め、関係機関が一体となってプロジェクトを推進して行きたい。
- ・ 防災拠点の整備は「目に見える安心」であり、市民の目に見える形で安心（防災拠点）ができていくということは非常にありがたいし、大変心強く期待している。
- ・ 米代川は農業用水や上水道の水源となっていることを広く市民に伝え、これまで以上に愛着を持っていただくとともに、防災・治水についても関心を持っていただけるような取組が必要だと感じている。
- ・ 河川管理者だけではなく、関係機関のハード・ソフトを含めた総合的な治水対策がプロジェクトとしてまとめられている。中でも氾濫を防ぐための堤防整備などハード対策が一番重要と考えており、プロジェクトに基づくハード整備を積極的に推進していただきたい。
- ・ 今後はいつでも大雨等があるということを肝に銘じながら取り組んで行く。想定最大規模に応じたハザードマップの作成と全戸配布及び自主防災組織の強化に努めたい。
- ・ 流域の関連する関係機関が一同にこのプロジェクトに参加していただいた。皆さんで対策や取り組みをやっていくというこのプロジェクトができたことに関して感謝を申し上げたい。

3. 議事

- (1) 規約改正（構成員追加）
- (2) 森林整備センターの取組等について
- (3) 米代川水系流域治水プロジェクト（案）について
- (4) 今後の進め方

⇒ ※議事終了後に出席委員からご発言



〔WEB会議の様子〕